

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念を理解するとともに『ひとりひとりを大切に、家族になる努力』…をケアの理想として挙げ実践していく方向で努力している。 | ユニットごとに作り上げた目標を掲げ丁寧なケアを実践している。それぞれの目標にはしっかりとしたサービスの心が盛り込まれており、共通の理念へと具体化に向けている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地区の学校等の行事には積極的に参加させていただいている。「納涼祭」を企画し多数の方に参加していただいた。 | 地区の祭り・学校・保育園・町内会への交流行事参加や廃品回収等々に参加し、一つひとつ関わりを増やし交流を深めている。これからは介護に関する講座を開く等、地域の拠点を目指している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議において外出要求のある方の対処など当施設の方針を理解し見守っていただくよう説明している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用状況や行事等の活動状況については詳細な報告を行い、その場にて出されたご意見に関しての対応については次回の会議に報告するようにしている。 | 会議には利用者、家族も含め幅広い方々から出席してもらい、定期的開催されており、意見、要望等に対し事業所の状況や改善点、これからの努力目標も丁寧に説明されている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 地域の包括支援センターとは入居前より緻密な連絡をとり、例えば半年に一回報告会(担当者会議)を行い共通の理解を深めている。 | 地域包括支援センターとは必要に応じて相談に乗ってもらい、連絡を取り合うと共に年2回程会議を設ける等、連携と理解を深めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 高齢者虐待防止研修会に数名の職員を派遣し拘束に関する意識を高めると共に各職員への伝達を行い共通認識を深める努力をしている。 | 身体拘束をしないケアを目指し、内外の研修で学びながら共有するとともに、利用者一人ひとりを理解し、家族・職員間で話し合い連携した対応に努めている。 | 身体拘束(指定基準)を正しく理解し、日々の生活を振り返り、また研修を重ねることで共通認識を深めていくことに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | (5-2) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 拘束や虐待を見逃さない意識は徐々に浸透しつつあり、個別ケースについてはスタッフで話し合う機会を設けている。 | 各種研修会に参加し、伝達も行いながら共通認識に努めている。職員のストレス、気になる状況等はその都度会議の中で修正検討がなされている。また職員は自己チェックを行い、振り返りや気づきに繋げている。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 一部職員ではあるが職員はに制度について理解し、利用支援も行なっている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には十分時間をとってその内容の説明を行なっている。利用者やその家族に不利益が生じないように、信頼関係を損ねぬよう注意を払っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者家族は運営会議に参加していただきご意見をいただいたり、また随時要望があった場合には柔軟な対応を心がけている。 | カンファレンスや面会時から聴き取れる所は聴き取り対応に努めている。アンケート等の結果は運営会議に報告し、意見や要望があれば職員会議に上げて検討している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月一回の職員会議を業務や職員待遇や組織の体制に関しての要望を聞く機会にしている。 | 2ユニット合同の職員会議において行事や困っていること、また体制についても話し合われており、アイデア、発言も多く聞かれ、運営に繋がられている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 研修や資格取得の支援など積極的に行い、有給消化も行えるよう配慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修に可能な限り職員を派遣し見識を深める努力を行なっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域GH協議会に参加し意見交換や情報交換を行なっている。年一回の合同研修に参加している。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご利用者とそのご家族には必ず入居前面接し、その意向を把握し、まずは信頼をもって安心してご利用、生活いただけるよう配慮している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の事情も十分把握し、要望等を汲み取ってサービス計画策定に活かしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | GH入居利用前には前任ケアマネージャー等と入念に打ち合わせをし、場合によっては包括担当にも同席いただいて「GH利用になった経緯」や「問題点」「解決策」等を確認している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 『一緒に楽しい思い』をし『同じ感動を得よう』と努力している。 | | |
| 19 | (7-2) | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | むしろ家族にご協力願うケースが多いのではないかと思っている。どの家族にも依頼できるわけでもないが、外泊や外出をお願いすることは多い。 | 利用者、家族間の関わりを出来るだけ大事に、良い関係を継続してもらうよう働き掛けている。毎月の通信に近況を書き添え、ホームでの様子を伝えている。 | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会は自由である。体調が悪くも無ければ何ら制限はせず、また利用者が行きたいところがあれば、可能な限り職員が付き添って外出している。 | 日々の生活の中からも希望・要望等を把握し、叶えるように心がけている。集団での外出も馴染みの場や安心して出かけられる所を検討し、日常的にはスーパーへの買い物や外食も楽しみの一つになっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者が孤立しないように、出来る限りの離床や外出は促している。強制ではないが食堂でお茶や食事をとっていただくようにしている。利用者同士の接触の中でのささえあいの場面では支持的に見守りを続けている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居したあとも本人や家族の状況に注意し、出来る限りの交流は行なっている。葬儀の「お見送り」には参加させていただいている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居前からアセスメントを行いセンター方式などを利用してその都度本人の希望意向を否定せず受容し、その実現に向けて検討を行なっている。 | 入居前のアセスメントだけでは不十分であり、センター方式を活用し、シートの項目を記入していくことで、本人の思いや暮らし方の希望、意向の受容に繋がってきている。 | |
| 24 | (9-2) | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の生活歴の把握に努めユニット毎の会議やミーティングなどで伝達し共通理解を持っている。センター方式のシートを活用して馴染みの暮らし方を把握し職員間で共有出来るようにしている。 | 利用者一人ひとりの入居前のライフスタイルを家族、ケアマネージャーから情報を把握すると共に、センター方式のシートを活用し、全職員間で会議等を通じ共通の理解を持つよう努めている。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個人記録や業務日誌に日々の暮らし方を記録し、変化についてはミーティングや申し送りで確認している。やはりセンター方式を利用し加除訂正を行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | これについてもセンター方式を活用し状態の変化や職員の気づきがあった際に随時シートに記入しプランに反映させている。モニタリングも3ヶ月に一回行って同じく反映させている。 | 本人のADLの変化や入退院による状態の変化等を、モニタリング時やセンター方式を活用し随時シートに記入しプランに反映させ、現状に即した介護計画になるよう努めている。 | 介護計画作成に当たり、職員間で会議を通じ意見交換やモニタリングが実施されているが、本人家族の参画するカンファレンスが実施されることを期待したい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録を記入している。健康面のデータはバイタルチェック表に記入し更に業務日誌にも情報共有のために記録を残している。機会を見て介護計画にその情報は反映させている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 帰宅要求の強い利用者などには柔軟に対応し家族と協力して対策を考えている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営会議などから得られた情報をもとに、とにかく外出するよう心がけている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 特別な理由がないかぎり入居前のかかりつけ医受診継続を推奨し、支援している。家族や本人の意向については最大限の尊重をおこなっている。 | 現在は、入居前からのかかりつけ医への受診が継続されるよう事業所も支援している。今後、ADL低下の利用者が多くなることを考え、協力医療機関との連携にも力を入れ、徐々に相談できるようになってきている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | GHに看護職の常勤はないが、1Fの小規模多機能勤務の看護師に随時相談は行い、また病態急変時の対応の相談も行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時にはフェイスシート等の提供など当該利用者に関する情報交換につとめ、治療方針の決定時や退院時など重要な話し合いには計画作成担当等が同席するようにしている。項目における『関係』については構築中と判断している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時にこの施設で「できること・できないこと」の説明は行い、そのなかで家人が主体的に選択できるように説明と提示は行っている。ただし多くの家族は左記項目の様な早期に終末期の介護イメージを持つことは難しい。(緊急時対応とは別である)ADLの低下時や治療が必要な場合などに繰り返し確認している。「度々確認をとること」と「いつでも中途変更可能」であることが大事と考えている。 | 入居時に、当事業所で「出来ること、出来ないこと」について説明を行い、本人、家族の意向に沿うようADLの低下がみられる場合等、確認をとることで段階的に進めている。医療機関との連携については機会ある毎に働きかけを行っている。全職員向けには終末期の意味を理解する勉強会を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|--------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | (12-2) | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時対応マニュアルに沿って緊急対応の想定訓練は行なっている。消防署の協力を得て救急救命講習の受講を介護職員に年度中一回は行なっている。 | 緊急時対応マニュアルは、各ユニットのわかりやすい場所に掲示されており、緊急連絡網と共に迅速に対応できるような体制がとられている。多様な事故に対応できるよう、消防署の協力を得て、介護職員全員が年度内に1回講習を受けることを義務付けている。 | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回総合避難訓練(消防署への通報訓練と模擬消火訓練含む・うち夜間想定は1回)を実施している。緊急連絡の体制についてはそれに加えて数回行なっている。地域の避難場所も確認しているが、地元消防団との関わりについては協力を得られるよう準備をしている。 | 防災対策は、出来ることから前向きに取り組まれている。設備面においては、スプリンクラーが設置されており、緊急時の安心は得られているが、ハード面で内階段が急であり、通常使い慣れていないことへの不安と非難の仕方等に苦慮している。 | 利用者・家族アンケートで、2階部屋の避難に対する不安と事業所の今後の改善策などが求められている。それらについて現在事業所が検討している状況等について、利用者、家族に説明して理解を得るようにすることが望まれる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個別対応を大原則としそのために入居前の暮らし方や嗜好を早期に職員が把握・共有し人格を尊重した対応を心がけている。その中でプライバシーの尊重にも個人情報ロッカーに施錠して保管している。 | 利用者一人ひとりのプライベートの情報は職員間で早目に共有し、生き生きとした暮らしぶりに繋がるよう言葉かけや対応に配慮している。個人情報に関しては記録の外部持ち出しの禁止等、徹底した指導を行っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 時間をとって話を聞くこと、自分の希望をだいにすることを意識した対応を心がけている。普段からそうした意思を表出できる雰囲気づくりにも務めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的なお茶の時間や食事の時間はあるが体調や気分なども尊重している。本人の意思が確認できない場合は職員が提案し自分が選んだという実感を得てもらっている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 身だしなみには基本的に注意するが、自分で選んで服装を決めてもらう方もいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 個々人の嗜好を把握し健康を害することのないよう配慮しながら食事を楽しめる様配慮している。 また前段階の簡単な調理や後片付けなどを利用者をお願いしている。 | 2つのユニット各々で献立作りから買い出し、調理等、利用者が参加できる場所は職員と一緒にいき、家庭で過ごしていた頃の経験が生かされた食事環境が出来ている。また、季節によっては屋外食、外食、店屋物を取り入れている。今後、栄養士からもアドバイスを検討している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | この項に挙げられたことを念頭に可能な限り個別に対応している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の歯磨きの勧めや口腔ケアを行い、磨き残しがないよう、場合によっては介助も行なっている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々人の排泄パターンを把握し職員間で検討した上でオムツの使用に頼らず、トイレ誘導や声かけなどで自然に排泄できるように配慮している。日中誘導声かけなどで普通の下着で過ごす方も多い。 | 毎日、利用者各々の生活状況を時系列で記録し、排泄パターンを把握している。入居当初オムツ使用だった人も日中は自然排泄できるようになり、普通の下着で過ごしている人が大方である。トイレは各ユニットとも4カ所あり、自立支援の環境が整っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の体調に及ぼす影響の理解は言うまでもなく、排便チェック表を作成し、水分や運動の不足で便秘になることがないように注意している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴日は定めてあるが、当日の本人の状態や希望によって若干の変更は随時変更は行なっている。ユニットごとに入浴日を交互にしているのでいつでも基本的には入浴可能である。 | 2つのユニットで交互に入浴日を定めている。本人の状態や希望により変更も可能であり、いつでも入浴が出来るよう体制が整っている。入浴を楽しむための工夫として、香り湯等も取り入れている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝時間や休息時間は基本的に利用者本人の希望によっている。夜眠れず不安な方に対しては安心して眠れるよう援助している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬一覧表を作成し、その内容と副作用などを職員に理解してもらっている。内容に変更があった場合業務日誌や個人記録等に記載し各人に確認を促している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴や介護歴から趣味や家事能力などを確認した上で可能な範囲で役割を持っていただいたり気晴らしをしていただいたりしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出支援は日常的に行なっている。希望の尊重は勿論だが外出し地域での生活を自覚する上でも重要なことと考えている。買い物などは毎日、月に1～2回は利用者全員で外出する。 | 利用者は地域柄農業経験者が大方であり、散歩中に地域の農作業をしている人と出会うと声を掛け合い会話を楽しむことを大切にしている。毎日の食材購入には、利用者も順番に連れ出し喜ばれている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本的に施設側では金銭の管理の援助は行なっていない。ただし希望が強い方に関しては限られたお小遣いを有効に使えるよう、本人の意思を最大限尊重した上で支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙電話等の制限はしていない。難聴などのため、その方法を取りにくい方に関しては職員が仲介を行なっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 基本的には自宅と同じような構成の空間づくりを心がけている。その中季節感を感じられるよう、利用者と職員と一緒に飾りやカレンダーをつくっている。活け花などにもそれが感じられるよう考えている。 | 2つのユニットは、いずれも利用者主体の共用の空間となっている。飾りの一つとして、枝ごとの干し柿を吊るし、干し加減等を話題にしながら出来上がりを楽しんだり、四季折々の貼り絵等、職員と共に楽しみながら壁面を飾っている。生活の場所の色彩は、自然であり落ち着いて生活できる空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールで過ごす位置(着座位置)は自由でソファやコタツ等も利用できるようにしてある。あるいは個室で利用者同士が話していることも多い。職員の都合に合わせず、活動性が低下しない範囲で利用者が自由に過ごせるよう配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 持ち込み物品に関しては危険物以外の制限を設けていない。 | 各居室ドアには、利用する本人の写真と思い思いの飾りがあしらわれ、間違いがないようにとさりげない心遣いが感じられる。家具の持ち込み等の制限はなく、部屋には使い慣れた家具や壁面の装飾等が施されており、家庭の雰囲気が取り入れられている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 身体や認知能力に応じ判別しやすい目印等に工夫している。 | | |